

## 【1】設問へのアプローチ

### (A) 傍線部説明問題「どういうことか、説明せよ」

傍線部説明問題のパターンは、「具体化、比喻、自分の言葉」。

(1) 傍線部は1文全体か？ 文の一部に傍線が引いてあったら、傍線部以外の箇所を見て、主語などを補う。傍線部以外の箇所に指示代名詞が含まれていてその具体化が答案作成のポイントになる場合もある。

#### (2) 傍線部の分析

傍線部を分節化する。「美しい芸術作品」などのような冗語はひとまとめと考える場合もある。

#### (3) 具体化

文節化した上で、具体化する。「要はこういうことでしょ」と思い切って分かりやすい説明をしてみよう。

##### ① 具体化のパターン

1) 本文を利用して説明する、2) 比喻を説明する (A と B は…の点で同じだ、相通ずるものがあること)、

##### 3) 自分の言葉で説明する

どのパターンでも、本文からヒントを探して解答のあたりをつける。

##### ② 本文の利用

1) 指示語の具体化、2) ディスコースマーカー、3) 類似表現

以上をヒントに、「傍線部前、傍線部後、両方」の3パターンを意識して該当箇所に線を引く。

傍線部の言い換え箇所は、多少調整すればほぼそのまま答案に使える場合もあれば、対比などを利用して言い換えなければならない場合や、完全に自分の言葉で言い換えなければならないパターンがある。

##### ③ 解答ができれば実際に傍線部に代入してみて、傍線部を含む文全体として不自然でないかチェックする。

##### ④ 最後に答案の自立性をチェックする。

「どこまで説明すればよいのか」という問いの答えは相対的であらざるを得ないが、「本文を読んだことがない人に自分の答案の意味が完全に伝わるか」ということを意識するとよい。例えば、「が」「は」などは当然説明の必要はないが、「同一性」などと言った抽象的な語は説明しなければならない可能性が高いだろう。

また「その」や「彼」などの指示代名詞は具体化しなければ、本文を読んだことのない人には何のことだか分からないので、具体化しなければならない。

そして、比喻は筆者特有の表現だから、当然説明しなければならない。

### (B) 理由説明問題：「傍線部とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。」

#### (1) 飛躍を埋める

$A \rightarrow B \rightarrow C$  の  $A \rightarrow C$  が傍線部になっているパターンが多い。本文をよく読み、Bの存在に注意する。理由のつながりを丁寧に辿る。また、 $A, A' \rightarrow B$  というように、複数の理由が組み合わさってBという事象を生み出しているパターンなどにも注意。

#### (2) 理由のヒント

「だから、なぜなら」といった分かりやすい表現だけでなく、「のである」など、理由を表す表現に敏感であろう。

### (C) 要旨要約問題 (問四)：「傍線部はどういうことか。本文全体の論旨を踏まえた上で、説明せよ。」

(1) まず、最初の三段落を読み直し、全体のテーマを再確認する。

#### (2) 分析

傍線部を分析し、答えるべき内容に目星をつける。この時点で、他の設問で答えた内容が必要になってくるようであれば、解答の方向性としてよさそう。

#### (3) 他の設問との対比

設問四あるいは設問五は、傍線部説明ながら、実際に解答を作ってみると、本文全体の簡潔な要約になっていることを意識しよう。



## 【2】読解の際に印をつけるべき語

### (0) 方法論

東大現代文は、本文に解答のヒントがたくさんちりばめられている。しかし、そうしたヒントを探して、闇雲に本文を読んでも時間のロスになるし、ヒントの取捨選択が恣意的になる。

そこで、代表的な目印を以下にまとめてみたので、参考にしてほしい。これらのポイントに着目して本文を読み、マーキングしていくことで、文章の論理構造を浮かび上がらせるとともに、解答に「使える箇所」を可視化していこう。

また、解答に詰まったとき、印をつけたところを中心に眺めてみると設問の狙いが分かったりもする（対比だ、理由だ、比喩だ、など）。 *マクロとミクロの視角*

### (1) デイスクースマーカー

論理の展開を示す語句。簡単に言えば、接続詞ないしそれに準ずる語はチェックする。「理由、対比、否定、譲歩、例示、追加」などが代表的。

#### ① 理由：なぜなら、というも

どういう主張の理由なのか。飛躍しないように理由のつながりを押さえる。

#### ② 対比：…に対して、その一方で

not A but B は要注意。

#### ③ 否定：ではなく、…よりむしろ

筆者が批判する立場に敏感であること。

#### ④ 譲歩：…だけれども～

情報の焦点に注意する。

#### ⑤ 例示：たとえば、このように、挙げられる

「一般化→例示」の流れに注意する。

#### ⑥ 追加：また、だけでなく、さらには

わざわざ付け足しているの、重要情報が来ると考えられる。

### (2) 「具体化→一般化」、同格、換言：つまり、このように、換言すれば、要は、

「抽象的な表現を具体的に言い換えている」「同格を用いて分かりやすく言い換えている」文はチェック。「つまり」「言い換えれば」「要するに」など。

### (3) 強調表現

筆者の強調に注意。本文のキーセンテンスになっている。「…こそ」「…他ならない」「まさしく…」などなど。また、「それ以上に」「…よりもはるかに」などといった比較表現など、価値判断が含まれる語にも注意。絶対に大切、必須、最も危険なのは、などなど。

### (4) 指示代名詞

指示代名詞が用いられていたら、何を指しているか逐一マーキングする。

### (5) 文末強調：のである文・修辭疑問：のである、のだ、であろうか

「…のである」「はたして…だろうか」などといった文末表現は相当な強調表現なので、チェックしておく。定義文は説明問題のヒントになる。

### (6) 繰り返し

本文で2回以上用いられている単語はマーキングしておこう。キーワードなので、そのまま使うか、それを具体化して使うか。

### (7) 傍線部の類義語・反義語

傍線部に含まれる言葉の類義語・反義語はマーキングしておく。



## ハンドアウト

### 《前回の復習》

- ① 記述答案で最も大切なこと。

Ans 答案の自立性

- ② 答案の自立性とは？

Ans 本文を読んでいない人に自分の答案が伝わるだろうか。本文を読んだ人にしか伝わらない答案は、採点官との共通理解に甘えた答案であり、説明不足と言える。

- ③ 答案の自立性のチェックポイント

Ans

- (1) 指示語がそのままになっていないか。
- (2) 抽象的な語が説明されないままになっていないか。
- (3) 比喩表現がそのままになっていないか。
- (4) 筆者特有の言い方がそのままになっていないか（括弧でくくってあったりする語）。

※以上を説明することを、本講義では「具体化」と呼ぶことにする。

- ④ 下線部説明問題のタイプは？

Ans

- 下線部説明の問題は
- (1) 下線部の前
  - (2) 下線部の後
  - (3) (1) と (2) の混合
  - (4) 自分言葉で説明、の 4 タイプ。

- ⑤ 下線部説明問題の定石は？

Ans

- (1) 構文（答案と下線部をそろえる）
- (2) 分析（何を説明すべきか）
- (3) 具体化（答案として独立するまで説明する）
- (4) 代入

### 《設問一》

- ⑥ 「生きている日本人は」

Ans

「日本人」は日本人でいいだろう。「生きている」は「死んだ日本人」、つまり「死者の霊」との対比で用いられている表現。その対比が答案全体として表現できていればよいので、「生きている」をわざわざ説明する必要はないだろう。



## ハンドアウト

## 【前提知識】

## ① 概念を使いこなす。

言い換え、同格

主文による

(1) 一般化→具体化, (2) 一般化→例示, (3) 対比, (4) アナロジー, (5) 否定 (not A but B), (6) 比喩 (7) 引用  
→ヨーロッパと非ヨーロッパ, という対比。

具体と抽象の行き来

## (1) 一般化→具体化

例: 「効率性」→時間がかからない, いい店→コスパのいい店

## (2) 一般化→例示

例: 「効率性」→家から図書館の文献にアクセスできる, 吉野屋で気軽に食事が取れる。

## (3) 対比

例: 「肉より魚が好きだ。」→魚の直接的な魅力を言うのに加えて, 肉よりヘルシーだ, などと対比で説明するやり方がある。

そもそも根元的概念

## (4) アナロジー

例: 「シーソーは片方が下に行けば, 相手は上に上がる。それと同様に, 日本語の謙譲語も同じ原理が働いている。」

## ② 答案の自立性

※「答案が自立している」=「本文を読まなくても理解できる」

要は, 本文を読んでいない人にも答案がそれ自体で相手に伝わるか, ということである。

## ① 指示語

例: 「これ, それ, 彼, 彼女…」 「この概念, あの問題」 など。

→指示対象を明示して答案を作成する。

## ② 抽象語 (圧縮→解凍)

例: 「こうした鉄緑会の先駆性は未だ評価されていない」。

→何が早かったのか, 具体的に説明する。例えば, 鉄緑会は英語 4 技能改革が始まる 5 年前に, それに伴う教材改訂を終えていた, など。

## ③ 比喩

例: 人生とは海図のない航海である。

→本文特有の比喩表現なので, 自分の言葉で説明する。

## ④ 筆者固有の言葉

例: 真の知的生産は, 知的浪費の果てにある。

→ここでは, 「浪費」が「いい意味」で使われている。

## ⑤ ティスコースマー

理由: なぜなら, というのも 飛躍しないように論理のつながり押さえる。

対比: ~に対して, 一方で これは等価

否定: ~ではなく, ~よりむしろ 批判の立ち場に重き

譲歩: ~だけれども 情報焦点

例示: 例えは, このように, 挙げられた 一般化⇔例示の流れ

追加: また, だけでなく, さらに, わざわざ付け足す重要情報

## ⑥ 文末強調, 強調表現

## ⑦ 繰り返しキーワード